



雲井キリスト福音教会主催 クリスマスコンサート

献身の証し

小松ベタニヤ福音教会元牧師 田中憲昭



私が初めてキリスト教会を訪ねたのは、今から六十年前の十三歳の頃

でした。そのきっかけになったのは、ラジオから流れてくる福音放送でした。当時、私の家では一日中ラジオが鳴らされていたので、その中で日曜日の福音放送を聞くとなしに聞いて、教会を訪ねてみようと思いつたのです。それは、私が中学校でいじめを受けていて、自分が惨めで悲しい思いをしていたからです。学校でのいじめは当時でもあったのです。それで、福音放送の連絡先に手紙を送り、教会を紹介してもらいましたが、教会から離れてしまいました。

私としていた頃、夜に夢の中で私を呼ぶ声を聞きました。「勇士よ。勇士よ。」これは神様が旧約聖書の中でギデオンに呼びかけた言葉であることを思い起こし、私は夢の中で主に答えました。「主よ、冗談はやめてください。私はそんな者ではありません。」

その後、もう一度教会に行ってみようと思いつき、今の小松の教会を訪ねました。そして、イエス様を救い主であることを受け入れ、洗礼を受けたのです。三十三歳の夏でした。十三歳の時、初めて教会を訪ねてから二十年后、イエス様を救い主と信じたのです。そして、六十歳の定年を迎えよう

として、六十歳の定年を迎えよう

しかしこの出来事は目が覚めても私の心に残り、主が私を献身へ導こうとされているのではないかと思ってきました。そこで、勤めていた会社をきっぱりと定年退職しました。ポイラー技士であった私に、残るように会社の上司からは強く勧められましたが、何の未練もなく、献身の道を進むことにしました。妻も私の献身に賛成してくれ、三人の娘と妻を家に残し、関西聖書学院に入学しました。卒業後、母教会に帰り、九十歳になられる鈴木勉先生から按手を受け、六十四歳で牧師の働きを始めました。

今年、七十三歳になり、あらゆる面で衰えを感じ、菅原道夫先生に小松の教会の牧会を委ねることにしました。

アルゼンチン宣教 在原繁先生の働きについて

アルゼンチン宣教を支える会代表 中見 透

在原先生の日本帰国中はデピュテーションで諸教会のお世話になっている事を感謝いたします。アルゼンチン宣教を支える会の代表をさせて頂き、在原先生の宣教に仕える姿を間近に見た者として報告させていただきます。

アルゼンチン宣教ニュースレターで在原先生がいつも書いていることと自らの生活に矛盾がなく、一貫した信仰の姿勢を持っています。そこから教えられることは、主を愛している、世界宣教のためにすべてを捧げている、現地の人々を心から愛している、日本の教会が世界宣教に宣教師を送り出すことは必ずその教会のリバイバルに、日本のリバイバルにつながる、と信じている姿勢です。

現地の教会で、信徒に礼拝や祈祷会出席を励まし、どんな時でも祈ることを勧めるとともに、特に宣教師を送り出している日本のリバイバルのために祈る執り成しの祈りを勧めています。

また、建て上げた教会をユニオンアッセンブリー教団に土地も建物も寄贈し、後々問題が起らないよう配慮しています。

在原先生のもう一つの働きは人材の発掘に優れている事でしょう。デピュテーションで諸教会訪問の際、この



人だ、と導かれたときはアルゼンチン視察にお招きし、現地での実施訓練を施し、あとは神の御手に委ねます。これらの方々の中には牧師の子弟の方々もいますが、その中から関西聖書学院に入学して学ばれ、教会で仕えておられる方々もあります。

それは宣教地でも変わらず、貧しい中にも忠実に献身的に教会に仕えておられる人を見て、祈りのうちに導かれると声を掛け、献身の思いを尋ね、このために祈るように指導し、召命が明確であれば神学校での学びを支援します。また、どんなに優秀でも貧しくて学校に行かれない人があれば経済的にサポートしながら自立することを教え訓練します。そのうちの一人パトリシア姉妹は現地の大学を首席で卒業し、宣教師候補生として沖縄で仕えています。

～T P K F 三役の提言～

本質的で重要な事

書記 上田 勇 矢



「コロナ対策に対する姿勢」について、一般的にはマスク着用、三密を避ける、距離を保つ新しい生活様式を基準にする教会が多いことでしょう。海外ではワクチン接種を願う人々と、接種を願わない人々が激しくぶつかり、家族や教会がコロナ禍に対する考え方の相違によって分断しています。「早く3回目接種を」という声がある一方で、「まだ治験中で、副反応も心配なので」との慎重な姿勢もあります。一クリスチャンとして、自分の姿勢を持つことは許されても、他の人、兄弟姉妹と共感できるかどうかは別のお話です。聖書的な福音の理解には、一致と共有がどうしても必要ですが、コロナに対する考え方には、まだ正解がないからしかたありません。

500年ほど前、宗教改革の時代、教会にとって本質的（本当に大切）なことで、非本質的な（どちらでもよ

い）ことが何であるかが問われました。聖職服は必要か、礼拝順序は伝統に沿うべきか、礼拝で使う用語は何が正しいのか、聖書物語の絵を飾るのは偶像か。後には、この違いがプロテスタントの諸教派を区別することにもなりました。カトリックからすでに別れていたプロテスタント教会が、教団教派に分かれていく原因は、福音の本質ではない場面でも起こっていました。

私達にとって、本質的で重要なことは何でしょうか？ 1年前、私は愛する息子の一人を生後5か月で、突然、天に見送りました。「コロナ禍だからみんな集まれないだろうけれど、この子は多くの人の愛を受けたから」と神の家族葬（公けの葬儀）を選びました。ふたを開くと、たくさんの人たちが訪問し、共に泣いてくださいました。どれほど慰めを受けたことでしょうか。それはローマ12:15の通りでした。「喜んでいる者たちと共に喜び、泣いている者たちと共に泣きなさい。」コロナ対策について、どのような姿勢が正しいのかではなく、どうすることが神の御言葉に従うことなのかを基準にする時、答えが出るのではないのでしょうか？

信仰継承（主の導きを信じて）



信仰継承は、クリスチャンにとって重要な課題です。クリスチャン家庭で育ったからといって、子どもたちがみな信仰に至るわけではないからです。我が子に信仰を継承させられるかどうかは、自分がどれだけりっぱな信仰生活を送るかとは関係ありません。私の娘たちは、3人とも信仰に導かれ、それぞれがクリスチャンとして信仰生活を送っています。でもそれは、私がりっぱな信仰生活を送っていたからではありません。むしろ信仰者としては、反面教師であったと思います。では、なぜ娘たちは私の信仰を継承したのか。先日、娘の一人にそれを聞いてみました。すると娘がこう答えました。「幼い時から教会に行き、神様がいるのは当たり前、日曜日に教会に行くのも当たり前、毎週教会学校で神様の話を聞いて育ったから、神様の存在を疑ったことは一度もない。教会を離れるという選択肢がなかった」と。しかしクリスチャン家庭であっても、子どもが教会に来ていないというのはめずらしくありません。クリスチャン家庭の子どもであれば、幼い頃はみな教会学校に行っていたと思います。しかし、中学や高校に行く頃から部活などを理由に教会を離れ、信仰に至らないまま社会人となり、未信者と結婚し、信仰を継承しないというパターンはよく見られるものです。

では、同じクリスチャン家庭で育ったのに、信仰を継承する家庭と継承しない家庭とでは、何が違うのでしょうか。何が正解なのかは分かりませんが、私が決めていたのは、第一に「日曜日には教会へ行く」ということ。ただそれだけで



信じるかどうかは本人の自由意思に委ねました。むりやり信じさせることは出来ないからです。第二に「いっしょに祈る」ということ。私は33歳の時に救われ、その時から子どもたちを教会学校に連れて行くようになりました。そして、毎晩子どもたちが寝る前

保土ヶ谷純福音教会牧師

三堂弘治



に、家内の救いのために一緒に祈りました。当時、長女は6歳、次女は3歳でした。そして、3年半の後に家内が救われ、家族そろって教会に行くようになりました。第三に「洗礼は強要しない」ということ。はっきりした救いの確信のないまま親の勧めで洗礼を受けても、大学生くらいになると、教会に来なくなり、結果、教会から離れてしまうからです。洗礼は、自分がイエス様と出会い、自分で決断しなければ、本当の救いを得ることは出来ないのです。第四に「信仰の証しをする」ということ。自分が経験した神様のみわざは、必ず娘たちに証しました。第五に「信仰のチャレンジを与える」ということ。長女には、高校生の際に夏の間、沖縄の教会に奉仕に行かせたり、大学生の時はアメリカのクリスチャン家庭にホームステイさせました。次女には、興味を持っていた韓国への留学を勧め、そこでの教会生活を通して、ずいぶん変えられました。帰国後は、自ら神学校の宣教師訓練コースに入学し、終了後にはインドネシアやモンゴルへの短期宣教へ行きました。三女も自らモンタナの聖書学校へ行きたいと言い、そこでの学びを終えた後、3カ月間のメキシコ宣教へ行きました。それぞれが、それぞれの場所で、神様から信仰のチャレンジを受けました。



しかし、子どもたちにとっての最大のチャレンジは、家内が天に召されたことでした。当時、信仰から離れていた長女は、悲しみを乗り越え神様と向き合って生きて行く決心をしました。「神様なんか嘘つきや！」と泣き叫んだ次女は、悲しみをこらえ夏のキャンプに出かけました。まだ16歳だった三女は、私にこう言いました。「祈りが聞かれなくてお母さんが死んじゃったから、神様なんかいないと思った。でも、お母さんは今きっと幸せなんやと思う。だから、今までは教会に行っても、ちゃんとメッセージを聞いてなかったけど、これからは正面から神様と向き合おうと思う。でないと、お母さんに会えないから」と。そして、翌年に次女が洗礼を受け、その翌年には三女も洗礼を受けました。それぞれが、神様から信仰のチャレンジを受け、大きく成長したのです。今思えば、いつも主の導きを信じて歩んできたことが、信仰継承に繋がったのだと思います。



あかし



70周年記念礼拝を顧みる

瀬戸サレム教会 磯部清二

1950年3月、北欧の国ノルウェーより28歳のキーステン・ハーゲン宣教師がキリスト教伝道の為、瀬戸市に来られました。全く日本語が話せなくても英語で堂々と説教される姿は神の御力を私たちに伝えるものでした。英語のお話が聞けると噂を聞いて集まった高校生達が、初めて聖書の御言葉を学ぶ機会に恵まれ、先生の英語の説教のフレーズごとに日本語に訳せる学生が挙手をして、伝道の道を開いていった全くの開拓伝道でした。

私は18歳の時、クラスメイトの友人に誘われ、ハーゲン先生を訪ね毎週集會に集い、先生の心からほとばしる強い説教の根源が聖書であることを教えられました。私を虜にした御言葉は、ヨハネ3章16節「神はそのひとり子を賜ったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。」でした。裏を返せばイエス様を信じなければ私たちはすべて滅びる、これ程きつい厳しい神の教えはありません。一方、神様は滅びやすい私たちを愛してくださっています。「信じます」と告白してイエス様を受け入れました。2年後には福井県武生市での最初の聖會の期間中に洗礼を受けました。信仰生活の始まりでした。靈的な弱さを何度も覚え、患難を通る度に支えられた御言葉イザヤ書41章10節を信じ、70数年守られて居ます。

瀬戸サレム教会は、2020年で開拓伝道に幕を開けてから70年。記念礼拝を2021年11月に持つことができました。この歴史は過去の過ぎ去ったものではなく、将来に備えられた神のご計画と希望を学ぶ大きな区切りであります。

野菜作りが楽しくなった

御殿場純福音キリスト教会 西山そよ子

主の御名を賛美します。主の恵みとあわれみの内を歩ませていただいた半世紀を振り返ってみると、早過ぎる！誰か時間を止めてくださいと、言いたいくらいです。

子供達の自立、孫達の子守と、一段落した私に「家の前の畑は、あんたにまかせるからやってね。」と、主人に言われて「やめてよー、そんな事言わないでよー。」と、文句を言いました。何しろ毛虫、青虫が大の苦手なのです。ちょっとでも見つけようものなら大声を上げて、主人を呼んで退治してもらおう始末です。

耕運したり、堆肥を手元まで運んでくれたり、サポートはしてくれるのですが、あとは「お好きなようにどうぞ」です。初めの頃はなるべく手の掛からない物を栽培しました。草をとったり、ビニールを掛けたり世話をしている内に愛着が湧いてきて、こんなに小さな種なのによくぞ芽がでてくれましたと声を掛けました。

それから毎朝畑に出るのが楽しくなりました。初秋の頃、野菜に蝶が止まってじっと動かずにいるので、後でその葉を裏返してみたら、小さな卵が何ときれいに整列し生み付けられていたのです。私は今迄、虫は苦手と頭から否定していましたが、彼らはその一生を季節毎に神様の栄光を表していたのです。

野菜を育てていると、神様の御手をいつも感じています。異種類のものが隣同士でも皆、個性を持ち自己主張しています。季節毎に収穫されていく物、サイクルの長短等、変化に富んだ世界です。神様はすべての源であり、私達をこの地上に最高の計画をもって生まれさせてくださり、それぞれに道を備えて導いておられる事を、小さな野菜畑で日々教えられ学ばされ、神様に感謝するのみです。

■ 年末証し会

〈イースト〉



町田純福音教会では、2021年、12月26日の主日礼拝後、参加者全員による「証し会」が開かれました。多くの方に証をしていただきたいということで、制限時間を3分としましたが、時間が足りず、2022年、1月2日の新年礼拝後も引き続き「証し会」が開催されました。限られた時間の中で、1人1人、神様から受けた祝福があふれ出るように語られ、喜びに満ちた時となりました。新しい年に恵みのスタートが切れましたことをイエス様に感謝します。アーメン！

(小川祐司)

■ クリスマス・レポート

〈FCMF〉



世界中で新型コロナウイルスが広がって、交わりの必要とウイルスのリスクのバランスを保つのが難しいと感じてきました。ブンキョウゴスペルセンターでも今は日曜礼拝を行うことができ感謝しています。礼拝では一般的なルール（マ

スクや消毒など）を守るようにしています。「互いに一つ心になりなさい」（ローマ12:16）とあるように、教会のメンバーが互いに思いやることをお願いしています。

クリスマスにはひとりの兄弟の提案によりコンサートを行うことができました。兄弟姉妹には家族や友達を誘うよう励ましましたが、誘った方にウイルスのリスクがあることも伝えるようお願いしました。結果、初めての方が10名来られ、イエス様が私たちのために生まれてくださったことをお祝いし、良い時間を一緒に過ごすことができました。神様はいつも私たちと共におられ、働いておられる事を覚えたいと思います。

(ダン・クック)

■ 賛美奉仕者実践セミナー・

P A 実践セミナー 〈キリスト福音〉

2021年11月23日（祝）、宣教メディアセンター主催で大津キリスト福音教会を会場に行われた「賛美奉仕者実践セミナー・P A 実践セミナー」には賛美セミナーに約20名、P A セミナーに10名が参加されました。

賛美セミナーの講師はレフトサーリ麻衣姉がボーカルのセミナーを、レフトサーリ神之助師が奏楽のセミナーを担当してください、2つのチームを作り、賛美リーダーを交代で務めたり、楽器の奏楽者がコーラスにも入るように編成するなど、短時間でも内容の濃いセミナーになりました。P A セミナーは初心者向きで大同が担当しました。

参加者からは「久しぶりに思いっきり賛美することができて、本当に恵まれた」、「興味本位で参加したがP A の奥深さを知ることができて良かった」などの感想が聞かれました。

(大同裕一郎)



■ KBI

KBIのために祈りとご支援をありがとうございます。

KBIの2022年度の年間標語は、「味わい、知る」になりました。み言葉はヨブ記42章2節「あなたには、すべてのことができること、どのような計画も不可能ではないことを、私は知りました。」と5節「私はあなたのことを耳で聞いていました。しかし今、私の目があなたを見ました」からです。神様ご自身を知る事。福音を頭で知っているだけでなく、それを体験し、感動し、その中を輝いて生きている、そのようなクリスチャンが内に外に、益々求められていると思います。

このテーマで、新年度および3週間コースが4月12日（火）よりスタートいたします。新年度の訓練と学びのために、交わりのために、どうぞお祈りください。また学生をどんどん送ってくださいますよう、よろしく願いいたします。

(関西聖書学院 高橋めぐみ)

教会紹介

美濃グレースチャーチ

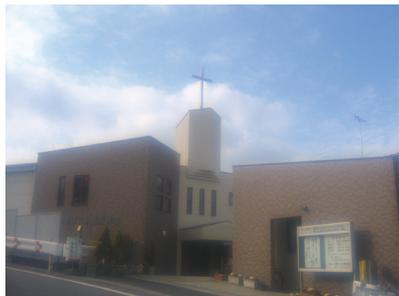
所在地：岐阜県美濃市もみじが丘 2-5

美濃グレースチャーチは2010年に開拓を始めました。当初は美濃市に教会として借りる場所が見つからず、関市にある一軒家を借りて「グレースチャペル」という名前でしたが、翌年に今の建物を借りて美濃市での伝道ができるようになりました。伝道は韓国からの短期宣教チームと韓国語講座で人々との接点を作っています。現在はコロナ禍にあって韓国語講座だけを行っています。美濃市の魂が救われる管として用いられたと思います。(辛海雄)



大津キリスト福音教会

所在地：大津市秋葉台 3-15



1962年、フィンランド宣教師により会堂を建設されました。36年の歳月がたち老朽化が目立ち、自然災害を受けた時、隣接する住民に迷惑をかけるのではと危惧し、新会堂建築のため祈って来ました。主からハガイ書2章4節・8節のみことばが与えられ、新会堂の建築に取りかかり、1999年1月に献堂式を行いました。翌年2000年10月に田上キリスト教会の献堂式を行いました。本教会の定期集会は日曜礼拝、日曜学校、各週に木曜礼拝を行っています。又、毎月第一日曜の礼拝後に執事・リーダー会を行っています。田上教会は日曜日にペルーの姉妹と共に夕拝を行っています。(四方秋男)

教会・グループ・働き人情報

■水口キリスト福音教会

2021年10月24日 西川牧雄伝道師が牧師に就任

■キリスト福音教会恵風聖会

野洲：さざなみホール 2022年2月23日(水・祝)

「キリストの日を待ち望む」 講師：朝子孝一・上田勇矢牧師

■キリスト福音教会長老執事訓練コース

2022年3月21日 参加者限定(教職：長老：執事)

「教会こそハラスメントを犯さないよう目を覚ますべき」

講師：石黒大地弁護士

■小松ベタニヤ福音教会

2021年12月田中憲昭牧師引退 菅原道夫牧師が小松南部キリスト教会と小松ベタニヤ福音教会を兼牧。

【訃報】

2022年1月26日 鶴見純福音教会 角和正毅牧師召天

1月31日 裾野純福音キリスト教会 横山勝彦牧師召天

TPKF大会のご案内

2022年は、コロナ禍オミクロン株の大流行で始まりました。今年もTPKF大会はリモート集会で行います。皆様の御参加をお待ち申し上げます。詳しい時間や内容は各教会にお配りいたしますチラシにて御確認下さい。ご一緒に、希望の神を見上げましょう。

第58回TPKF大会実行委員長 菅原純次

1. 教職者・信徒リーダー対象：聖会/セミナー 2022年4月29日(金・祝)
2. 全教会員対象：聖会を後日配信

講師：大坂太郎師(日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団山手町教会牧師)
※北海道苫小牧市においてリモート集会などで教会形成を行っておられる。

テーマ：希望の神と共に生きる

「どうか、希望の神が、信仰によるすべての喜びと平安であなたがたを満し、聖霊の力によって希望にあふれさせてくださいますように。」
(ローマ人への手紙 15章 13節)

単立ペンテコステ教会諸教会(名簿順)

北広島自由キリスト教会／平川キリスト福音教会／房総中央キリスト教会／大佐和キリスト教会／町田純福音教会／鶴見純福音教会
横浜フィラデルフィヤ教会／磯子フィラデルフィヤ教会／金沢フィラデルフィヤ教会／横須賀クリスチャンセンター
保土ヶ谷純福音教会神の愛チャペル／大和あがないの丘キリスト教会／戸塚カルバリ純福音教会／栄シャローム福音教会／伊勢原聖書キリスト教会
秦野クリスチャンセンター／北アルプスグローバルチャーチ白馬キリスト福音教会／南アルプスグローバルチャーチ小笠原純福音教会
甲府カルバリ純福音教会／ハーベスト・チャーチ山梨／裾野純福音キリスト教会／御殿場純福音キリスト教会／富士純福音キリスト教会グレイスチャーチ
いのちのパンの家／小松ベタニヤ福音教会／小松南部キリスト教会／ホープハウス／福井自由キリスト教会／ブンキョウゴスペルセンター
松岡福音教会／丸岡福音キリスト教会／勝山自由キリスト教会／The Lighthouse 749(三国)／武生自由キリスト教会
グローリーチャーチ敦賀自由キリスト教会／金津福音キリスト教会／小浜キリスト福音教会／小浜キリスト福音教会三方伝道所／高富グレイスチャペル
岐阜純福音教会／岐阜純福音白鳥教会／岐阜ライフチャーチ／美濃グレースチャーチ／本地ヶ原自由キリスト教会
瀬戸サレム教会／大阪キリスト福音教会名古屋伝道所／滋賀キリスト福音教会／守山キリスト福音教会／大津韓国福音教会／大津キリスト福音教会
田上キリスト教会(大津キリスト福音教会伝道所)／甲賀キリスト福音教会／水口キリスト福音教会／甲西キリスト福音教会
雲井キリスト福音教会／米原キリスト福音教会／綾部キリスト福音教会／亀岡ベタニヤ教会／京都キリスト福音教会
山科キリスト福音教会／深草キリスト福音教会／宇治キリストペンテコステ教会／木幡キリスト福音教会／大阪キリスト福音教会
須磨自由キリスト教会／神戸フィラデルフィヤ教会／南さつまキリスト福音教会

以上の教会に1部以上を送っています。私たちの願いはすべてのTPKFの信徒が1部ずつ持つことです。

ご意見、ご感想は次のメールアドレスをお願いします。tpkf.pentecost@gmail.com TPKFの公式ホームページ <http://www.tpkf.org/>

